

復興支援フォーラムニュース No. 103

(URL <http://www5a.biglobe.ne.jp/~tkonno/FK-forum.html>)

<事務連絡先> 今野順夫 (tkonno67@gmail.com)

<第101回ふくしま復興支援フォーラム>

「原発災害後の福島の生業再生と地産地消のゆくえ —沿岸漁業復興と“もやい直し”の可能性」

林 薫平 (福島大学経済経営学類准教授)

1. いま、福島県の漁業はどうなっているのか。

- ①前提として、原発災害が福島の一次産業に与えた影響、その中で、農林業と漁業の違いは何か、汚染水の問題など。
- ②海面漁業の種類と、種類ごとにこうむった原発事故の被害、震災前と現状。
沿岸漁業と沖合底引き漁業で震災前には年間約2万5千トンの水揚げがあったが2015年は1,500トンで約6%。

2. 漁業復興協議会が2012年に構築した「試験操業・試験流通」のスキーム

- ①試験操業開始(2012年6月)までの経過。
- ②一進一退の汚染水問題と並行して進んできた試験操業のこれまでの歩みを振り返る。
- ③2016年に入って出てきた福島県漁業復興のいくつかのニュース。
- ④視点… 漁業復興協議会の役割
 - ・生協、流通事業者、学識者等が加わったメンバー構成と、マスコミへの公開により、漁業再開の論議の透明性を高め、消費者市民 vs. 漁業者の対立構図を払拭する。
 - ・放射性物質の基準、検査、回収方法などをめぐるルールづくりを、協議会の場で行うため、各ステークホルダーの意見を折り合わせてルールをつくることできる
(50ベクレル自主基準の件、自主基準を超えた検体が出た場合の対応をどうするか、検査ロット [ひとまとまり] をどう考えるか、などをめぐって)

3. 今後の検討課題

- ①今後、本格的な操業への移行は可能か、可能だとしたら課題は何か。そこで、漁業復興協議会の役目は何か。
- ②浜通りの地域復興と水産関連施設の合理的配置のジレンマ。
- ③溜まる汚染水の問題。トリチウム水。河北新報・寺島記者の論説を参照。

4. 市民として考えたいこと

- ①コープ「浜のかあちゃん調理教室」(2014年)
- ②原発災害の中の福島の「地産地消」のゆくえ
(福島県生協連『福島の食と農の再生に向けて』より)
- ③福島版の“もやい直し”の必要性

(2015. 9. 17)

第100回ふくしま復興支援フォーラムでのご意見等

2015年9月17日、第100回ふくしま復興支援フォーラムを開催しました。

真木實彦氏(福島大学名誉教授)と、斎藤紀氏(医師)から、「復興の現段階と今後の課題」をテーマに、それぞれ報告をいただきました。60名の参加をいただきました。

会場での活発の質疑応答、意見交換がありました。文書でも以下のようなご意見などが提出されています。参考にしてください。

1年以上経過してしまいましたが、改めて紹介させていただきます。

(開催直後に、ブログの方 (http://blog.livedoor.jp/tkonno_2012/archives/45462855.html) には掲載させていただいております。)

~~~~~

★ 100回の開催大変ありがとうございました。福島の問題が総合的にとらえるのに勉強になりました。これからさらに取り組まなければならない課題は山積だと思しますので、引き続きよろしくをお願いします。(J.M)

★ 第100回のフォーラムとして、「復興の現段階と今後の課題」というテーマでまとめられたこと、二先生に感謝します。(K.F)

★ 今野先生、お疲れ様でした。100回の蓄積は素晴らしいことです。必ずや本県の復興に貢献すると思います。ありがとうございました。(H.S)

★ 母が抱く不安について、今後母になるであろう自分も考えさせられました。今野先生、100回という長い期間、お疲れ様です。尊敬します。今後も、出来る範囲で継続していただければと思います。(M.K)

★ 関西からの来訪者が、福島原発でチェルノブイリのような石棺を何故作らないのか、と質問したので、福島では廃炉の後、更地になるのを期待しているのだ、と答えましたが、福島で今後どうするつもりなのかを全国発信していく必要があると思いました。(I.O)

★ 100回にわたるフォーラム、ありがとうございました。課題の振り返りの中で、4年間の動きをあらためて冷静に眺めると、現実には起きている問題とは別のところで、中央の政争によって、どのような事実が起こっていた方が有効であるか、“どうあってほしいか”という視点から事実が拾われ、消費されていた側面があるのではないかと危惧します。政争のために用いるシンボルとして切り取られた「フクシマ」は、既に我々にとっては風化したものであり、当初、我々が這い上がるためには助けとなったものが、枷となりつつあるように思える。現在進行形で、現実を直截に見て、自分たちの課題として向き合っていくのは、これからも我々自身。(D.Y)

★ ありがとうございました。刺激がありすぎてまとまりませんが、そのうちまとめます。自治体の重要性は、岩手と宮城の比較で強く感じていました。臨床医が社会病理に取組め→受けとめるよう努力しましょう・・・国が支援する責任とる立場に立つことが不可欠だと思います。(T.K)

★ 折角100回の個別的(実態に触れた)報告にもかかわらず、話はいっぺんに抽象的な空中戦に終わったように思われ、少々物足りなかった。長いこと、貴重な企画、地味な努力、本当にご苦労様でした。(S.I)

★ 4年間で100回の準備、本当にご苦労様でした。原発・震災から4年半たって、県民の健康問題や事故収束など新しい課題が提起されています。今後もフォーラムの果たす役割は大きいものがあり、期待します。(K.S)

★ 特に斎藤先生の話がためになりました。おっしゃる通り、放射線の急性障害がなくても、

避難することで、さまざまな健康被害が生じていたのですね。100回ご苦勞様でした、これからは毎月とはいかないでしょうが、少しでも長く続けていただきたいと思います。(K.M)

★ 斎藤先生の説明は、資料、数字に裏打ちされており、大変参考になった。使用されたレジメが欲しいと思った。(A.G)

★ 4年間、100回にわたる開催お疲れ様でした。大変な偉業だと思います。とても勉強になりました。今回も学びがありました。ありがとうございました。(S.Y)

★ 皆さん意見を持ち、話したいのですが、短い時間ですので、できるだけ先生(講師)に話していただくべきだと思います。意見や質問は短くするようにしたいものです。真木先生、斎藤先生のお話は、大変参考になりました。(T.H)

★ 様々な事実・状況、論点を明らかにしてくれました。本当にありがとうございました。厳しい状況なので、より明確な努力の方向性、課題を、一緒に明らかにしていきたいと思います。(M.S)

★ 100回、大変お疲れ様でした。ここで様々な出会いがありました。心からお礼申し上げます。(Y.I)

★ 斎藤先生の質疑応答での、社会的病理の解決には、法、司法の支えが重要であり、それが細胞病理の解決にもつながるという指摘を、法に関わる者として、重く受けとめました。フォーラムの100回の継続、お疲れ様でした。(T.I)

★ 今野先生のおかげでの100回です。今後ともよろしくお願ひいたします。(Y.M)

★ リスクは過去ではなく未来にあると感じた。現在という時間軸を用いると、必然的に「過去」と「未来」という概念が浮上するが、「3.11」というものは、時間軸で考えれば、まぎれもなく過去のものとなる。そのため、個人的に風化することは自然なことだと考えている。(人は本来忘れる動物でもある)問題は風化してしまうことよりも、そのリスクが全て「未来」に先送りされてしまう点だ。「過去」から「現在」までの時間で、私たちは様々なことを経験したが、その経験によって「知る」ということを学んでいる。しかし、肝心の「未来」に対するアクションが欠落している。(Y.M)

★ 真木先生の、個々の自治体に対する復興計画への参画はあったが、広域(浜通り or 福島県)の復興計画に、誰がどのように参画したのか。県の役割は何か、何をしたのか。県こそ広域の復興計画作りの主役となるべきとの提言に共鳴する。福祉、インフラ整備、住宅対策など、どれをとっても市町村、被災者に、県は何もしてくれないとの印象があった。斎藤先生の原因事故関連死、特に現役世代の自死については心が痛む。生活再建は、住宅再建なくしてあり得ず、帰還の時期や生活環境など不安要素を多く抱え、これから何年続くのかと思う。線量の低い場所から高い場所への移動(帰還)は、便益が向上する場合に限り、許されるとの説明は説得力がありました。行政も支援者も、戻すことばかり熱心だったように思う。反省です。(T.S)

★ 原因事故の影響は根深いと常々感じているが、「放射線の障害性は、細胞病理を前提として、社会病理に転化する」という的を得たキーワードに納得した。「社会病理」を解決することが、今ある課題であり、それが具体的に何であり、どのように対処するのか・・・これから一人ひとりが向き合っていく必要があることを心することができた。むしろ4年半経ち、様々なカテゴリーの課題があぶり出されてきた今がスタートと思います。第100回というひと区切りのフォーラムとして、素晴らしい内容でした。ありがとうございました。(S.Y)

★ 4年間、100回の開催、お疲れ様でした。今野先生の「各界でご活躍の皆さんから実態に基づくご報告」に、本会の基礎があったと思う。これが「復興」に大きな力となった。今後は「再生」に向けた新たな展開を期待したい。(R.N)

★ 大変、お疲れ様でした。月1回、11日に新しい運営チームを作って続けたいです・若者チームと共同で、新しい福島の創造につながるような会を続けていければと思います。多様な人々と福島を考えて、実際に行動をうつしていけるような会にできればと思います。(H.S)

★このフォーラムを今後も継続していただきたい。①第1部従来討議の計増、②第2部全他の進め方と提言、とりまとめ(第2部を新設強化)／考える会(福山支部からの長期ビジョンの提案)  
①エネルギー、'30年原発ゼロ、'50年脱ガス、脱石油 ②農業自給率 '30年50%、'50年75%  
③まちづくり、産業誘致、後継者対策／若者に参画してもらおう→各地へ分科会(T.S)

~~~~~

【予告】第102回フォーラム 2016年11月16日(水) 18:30~20:30

「震災後の学校状況調査から」

報告者：朝賀 俊彦 氏(福島大学人間発達文化学類教授)

会 場：福島市アクティブシニアセンター「AOZ(アオウゼ)」視聴覚室

~~~~~